

第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（ なかよしクラブ ）

【名 前】（ 吉川美里 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 18 ）分科会 （ 子どもの気持ちに気づく一家庭で、学童保育で一 ）

第（13-②）分科会 （ 発達障がいのある子どもの理解と支援 ）

②この分科会を選んだ理由をお書きください。

18 分科会は以前受講した際に時間が足りなかったように感じ、もう一度チャンスがあったらもっと学びたいと思っていました。13 分科会は目の前にいる子どもを考えた時、指導員として定期的にしっかり勉強した方が良いと思ったためです。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会での記念講演は 想像していたものと違い、世界を駆け巡って活躍されている安藤さんが 直接感じた現実の子どもたち（世界の）の姿を知ることが出来て大変勉強になりました。信じられないような辛い現実と直面している子どもたちが世界にはたくさんいること、日本の子どもたちにも分かりやすい形で知る機会が欲しいと思いました。

第 18 分科会は、杉田先生の分科会を自分でリクエストしたこともあり、ゆっくり受講してみたいと思っていました。学んだことはたくさんありますが、特に“学校でもなく家庭でもなく、保護者とも共有しながらみんなで育てられる環境にある学童保育所は 今本場に貴重な存在である”という言葉は何度も繰り返していました。この分科会のテーマにおいては明確な答えはないが、コミュニケーションの際に話しやすい雰囲気を作り、一人一人丁寧に関わる積み重ねの大切さを教えていただきました。時には“緩さ”も大切ということでした。先生の雰囲気そのものも指導員にとっては大きな学びに感じました。子どもたちの生き抜いてきたことへの敬意、想像、そして大人自身の生き方やあり方も考える必要性があることも感じました。子どもたちが話しやすい雰囲気を作ったり、話しやすい存在になれるよう、努力・工夫をして経験を積み重ねていこうと思いました。

第 13-②分科会では、発達障がいの特徴や定義、支援における留意点などを一から学びました。もう少し時間をかけてゆっくり学んだ方が良い内容が凝縮されていました。まずは気になる子どもが増えてきたという近年、問題行動として、特に暴力行為・いじめ等の発生率がとうとう中学校を抜いたという考えさせられる所から始まりました。第 18 分科会でも共通しますが、背後にある環境や思いを考え、“寄り添いたいと思う気持ち”が大切で、子どもをよく見てその子の良いところを見つけてもっと伝えていく必要性を感じました。あなたのことを知りたい・分かりたいという思いで支援していくことです。“児童クラブこそが心のケアのプラットホーム”という言葉がとても印象的でした。同時に改めて責任の重さも感じました。この頃子どもの事件が多く、安全を守ることで頭がいっぱいではありますが、焦らず目の前にいる子どもをよく見て、その子が出来そうなことから少しずつ支援していくことが心のケアに繋がると信じて頑張ろうと思います。